

**A-Lab**  
あまらぶ アートラボ

尼崎市

お問合せ先

尼崎市 シティプロモーション推進部 都市魅力創造発信課  
TEL : 06-6489-6385 (イベント時 06-7163-7108)  
FAX : 06-6489-6793  
E-mail : amalove.a.lab@gmail.com

# A-Lab

archive

vol.5

A-Lab Exhibition Vol.4

## 忍たま乱太郎セル画展

～最後のセル画・第8期を中心に～

ウルトラシリーズの  
ヒーローや怪獣をデザインした 芸術家

尼崎ゆかりの

## 成田亨 資料展



あまらぶアートラボ A-Lab Exhibition Vol.4

## 「忍たま乱太郎セル画展 ～最後のセル画・第8期を中心に～」

## 「ウルトラシリーズのヒーローや 怪獣をデザインした芸術家 成田亨 尼崎ゆかりの資料展」

---

### ■目次

「忍たま乱太郎セル画展～最後のセル画・第8期を中心に～」	03
「ウルトラシリーズのヒーローや怪獣をデザインした芸術家 成田亨 尼崎ゆかりの資料展」	11
フライヤー	19

A-Lab Exhibition

# 「忍たま乱太郎セル画展 ～最後のセル画・第8期を中心に～」

主催 尼子事務所・尼崎市



NHK で放送中の人気アニメ「忍たま乱太郎」。原作「落第忍者乱太郎」の作者・尼子騷兵衛さんは尼崎の出身・在住で、登場人物の名前には沢山の尼崎の地名が使われています。今回、子どもたちに尼崎ゆかりの作品を身近に感じてもらうと、有限会社尼子事務所のご協力のもと、セル画展を企画しました。「忍たま乱太郎」は1993年から放送が始まり、今年24年目（第24期）を迎えるNHKの最長寿番組ですが、第1期～第8期（2000年）まではセル画で制作、それ以降はコンピュータグラフィックで制作されるようになっていきます。今回、最後のセル画である第8期の放送用セル画を中心に、コンテや下絵など関連資料を展示します。

## 尼子 騷兵衛 あまこ そうべえ



尼崎市生まれで騒々しいことからペンネームとする。

1986年より朝日小学生新聞に「落第忍者乱太郎」を連載中。

1993年NHKテレビアニメ「忍たま乱太郎」の放映により注目され、執筆、絵画展、講演活動と幅広く活躍する。

現在もNHK教育テレビアニメ「忍たま乱太郎」は、親子で楽しみ安心して見られる番組と支持され放映中である。

学生時代に日本史を専攻し、中世（鎌倉時代）の日本に興味をもつ。

時代考証には特にこだわり、文献・刀剣・火縄銃等も収集する。

時として忍者装束を着て女忍者（くのいち）になってパフォーマンスも行う。

女忍者（くのいち）は年齢不詳である。





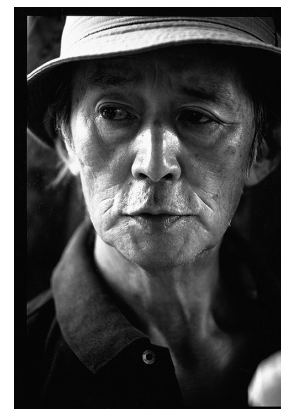


# 「ウルトラシリーズのヒーローや怪獣をデザインした芸術家 成田亨 尼崎ゆかりの資料展」

主催 尼崎市 作品クレジット ©Eternal Universe



ウルトラシリーズのヒーローや怪獣、特撮セットなどをデザインした成田亨（なりた・とおる 1929 - 2002）氏は彫刻家、画家、デザイナー、特撮美術監督とジャンルの垣根を越えた多彩な表現活動を行った芸術家です。8歳から14歳までを尼崎市の大庄村で過ごし、その間、自宅近くの武庫川によく行っており、卒業した尼崎市立西小学校創立50周年記念誌には、「嫌なことがあると自宅近くの武庫川で泣き、雲を良く見ていました」「よく天王寺の美術館に行き、絵描きになると決心すると同時に、武庫川に行き、坐って雲を見る日が多くなりました」と記し、「快哉を叫ぶ脳裏に今も武庫川の雲が流れています。」と綴っています。そのような思い出もあり、ウルトラシリーズのデザイナーとして活躍された頃にも、武庫川の地元商店主らがまちの活性化のために活動していた「ムカエル王国」に対し、まちづくりのシンボルとして、武庫川にウルトラマンのモニュメントの制作を提案するなど、武庫川に格別の思いをもっておられました。今回は、西小学校に寄贈された絵画やサインをした図録、ムカエル王国へのモニュメント設立に向けて送られたウルトラマン像や提案資料など、尼崎ゆかりの作品をご紹介します。



## 成田 亨 なりた とおる

- 1929（昭和4）年 9月3日神戸市に生まれる。1930年4月青森県に転居。
- 1937（昭和12）年 兵庫県武庫郡大庄村（現・尼崎市）へ移り、大庄村立大庄尋常小学校に転校。さらに4年生の時、大庄村大庄第二尋常小学校（尼崎市立西小学校）に転校。
- 1942（昭和17）年 大庄国民学校高等学校に入学。
- 1943（昭和18）年 辰馬学院甲陽中学校（現・甲陽学院）に入学。この年、摂津本山（現・神戸市東灘区）へ移る。
- 1945（昭和20）年 神戸市で空襲により被災。青森へ移り、終戦を迎える。県立青森高等学校卒業後、画家・阿部合成、彫刻家・小坂圭二の指導を受ける。
- 1950（昭和25）年 武蔵野美術学校（現・武蔵野美術大学）西洋画科入学。3年次に彫刻科に転科し清水多嘉示に師事。
- 1954（昭和29）年 アルバイトで東宝映画「ゴジラ」の撮影現場の手伝いをしたことをきっかけに、映画美術の世界に入り、彫刻家として新制作展（1955[昭和30]年の第19回展から1971[昭和46]年の第35回展まで）に出品を続けながら、映画の特撮シーンを数多く手がける。
- 1960（昭和35）年 東映で特撮美術監督。1962（昭和37）年第26回新制作展で《八咫》が新作家賞受賞、協友となる。
- 1965（昭和40）年 円谷特技プロダクションに参加、「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」「マイティジャック」の怪獣、宇宙人、メカニックのデザインのほか、特技全般を手がける。
- 1968（昭和43）年 円谷プロを離れる。以後、ディスプレイデザイン、舞台、テレビ、映画の特撮を数多く担当。
- 1969（昭和44）年 株式会社モ・ブルを設立。
- 1970（昭和45）年 日本万国博覧会の岡本太郎作《太陽の塔》の内部に《生命の樹》をデザイン。
- 1972（昭和47）年 「突撃！ヒューマン!!」のキャラクターデザイン他特技全般を担当。
- 1983（昭和58）年 六本木アネックスで個展。朝日ソノラマより画集出版。
- 1990（平成2）年 京都府大江町（現・福知山市）に《鬼モニュメント》を制作。
- 1991（平成3）年 東京・銀座に「ギャラリー宇論」開設（1992年まで）。
- 1994（平成6）年 北上市立鬼の館のためにリレーフ《鬼幻影》を制作。
- 1996（平成8）年 フィルムアート社より『特撮と怪獣 わが造形美術』、『特撮美術』刊行。
- 1999（平成11）年 水戸芸術館現代美術ギャラリーで開催された榎木野衣企画の「日本ゼロ年」に出品。同年青森県が、ウルトラ関係のデザイン原画189点を購入。2006（平成18）年開館の青森県立美術館の所蔵品となった。
- 2002（平成14）年 2月26日、多発性脳梗塞のため永眠。享年72歳。

「成田亨作品集」成田亨略年譜から抜粋









尼崎市創100周年記念事業

### 忍たま乱太郎セル画展

～最後のセル画・第8期を中心に～

8月6日(出)～9月19日(月祝) (火曜日休館)

会場 **あま白紙アートラボ A-Lab** (入場料無料)

1階 9時～19時

### 忍たま乱太郎セル画展

～最後のセル画・第8期を中心に～

8月6日(出)～9月19日(月祝) (火曜日休館)

月・水・金 午前11時～午後7時  
土・日・祝日 午前10時～午後6時  
(入場料無料)

※NHKで放送中の人気アニメ『忍たま乱太郎』原作『真田源次郎』の作者・尾形龍兵衛さんとは異なり、本作では、登場人物の顔には原作者の顔が使用されています。  
『忍たま乱太郎』は1993年から放送が始まり、今年24日(第24期)全編、NHKの最終アニメ番組となっています。アニメーションでは、第1期～第6期(2000年)までは、実際に撮影したセル画というものが作られて制作されてきました。それ以後はデジタル化されたコンピュータグラフィックが用いられるようになってきました。  
今回、最後のセル画である第8期の放送用セル画を中心に、コンピュータグラフィック技術も展示します。『忍たま乱太郎』は通常アニメよりも1秒間に使用されるセル画の枚数が多く、なるなる作画が特徴。本展覧会では、1コマずつ複製したセル画も展示しており、アニメの動きをイメージしながらご覧いただけます。  
お楽しみには、絵の描き方・色調の美しさをお楽しみください。

あま白紙アートラボ **A-Lab**

市民民衆の活動を促進し、尼崎市にオープンしたアートスペース。若手アーティストの発表・制作の場として活用することで、若い人のチャレンジを応援するとともに、とくに居っていただく機会を増やします。また、アーティストやアーティストによるワークショップやイベントを通じて、まちづくりとアートについて考えていくとともに、子どもたちをはじめ、市民の皆さんに身近な、特許できる機会を提供しています。こうしたアートを通じたまちづくりを推進することで本市の新たな賑わいを発信していきます。

あま白紙アートラボアドバイザー 伊藤まゆみ/大塚真実/石谷行人/中野英人/志川直隆 (後援)

問い合わせ先 市民民衆活動推進課 06-6489-6385 (イベント開催課 A-Lab 06-7163-7100)

同時開催 ウルトラスリーのヒーロー怪獣をデザインした 芸術家 成田亨 資料展

忍たま乱太郎セル画展 フライヤー

尼崎市創100周年記念事業

ウルトラスリーのヒーロー怪獣をデザインした 芸術家

### 成田亨

尼崎ゆかりの資料展

8月6日(出)～9月19日(月祝) (火曜日休館)

会場 **あま白紙アートラボ A-Lab** (入場料無料)

主催 尼崎市 制作クレジット©External Universe

### 成田亨資料展

ニ崎ゆかりの

8月6日(出)～9月19日(月祝) (火曜日休館)

月・水・金 午前11時～午後7時  
土・日・祝日 午前10時～午後6時  
(入場料無料)

成田亨  
Tohi Narita (昭和9年(西暦1934年)兵庫県生まれ)

ウルトラスリーのヒーロー怪獣、特撮セットなどをデザインした成田亨(なりた・とひ)とある。1929～2002)氏は彫刻家、画家、デザイナー、特撮美術監督とジャンルを幅広く越えた多岐な活動を行った芸術家です。8歳の時に兵庫県武庫野新田村(現・尼崎市)へ移り、大庄村立大庄尋常高等小学校(現・尼崎市立大庄小学校)に転校。さらに4年生の時、学校分離により大庄村立大庄第二尋常小学校(現・尼崎市立西小学校)に通うようになります。その後、14歳まで尼崎市で過ごしました。その間、自宅近くの武庫川により行ったり、卒業した西小学校創立50周年記念誌には、「嫌なことがあると自宅近くの武庫川で遊ぶ、雲を良く見ました」「天王寺の美術館に行き、絵書きになると決心すると同時に、武庫川に行き、滑って顔を打つのが多くなりました」と記し、「怪獣を叫ぶ顔にも美術的な面が表れています」と語っています。そのような思い出もあり、ウルトラスリーのデザイナーとして活躍された頃にも、武庫川の地元民生らごまちの活性化のために活動していた「ムカエ王国」に対し、まちづくりのシンボルとして、武庫川にウルトラマンのモニュメントの制作を提案するなど、武庫川に特別な思いを抱けておられたようです。

今回は、西小学校に習得された動物やサインをした図録、ムカエ王国モニュメント設立に携わって開かれたウルトラマン像や提案書類など、成田亨・尼崎ゆかりの資料をご紹介します。

あま白紙アートラボ **A-Lab**

市民民衆の活動を促進し、尼崎市にオープンしたアートスペース。若手アーティストの発表・制作の場として活用することで、若い人のチャレンジを応援するとともに、とくに居っていただく機会を増やします。また、アーティストやアーティストによるワークショップやイベントを通じて、まちづくりとアートについて考えていくとともに、子どもたちをはじめ、市民の皆さんに身近な、特許できる機会を提供しています。こうしたアートを通じたまちづくりを推進することで本市の新たな賑わいを発信していきます。

あま白紙アートラボアドバイザー 伊藤まゆみ/大塚真実/石谷行人/中野英人/志川直隆 (後援)

問い合わせ先 市民民衆活動推進課 06-6489-6385 (イベント開催課 A-Lab 06-7163-7100)

同時開催 忍たま乱太郎セル画展 ～最後のセル画・第8期を中心に～

成田亨資料展 フライヤー

あまらぶアートラボ A-Lab archive vol.5  
Exhibition vol.4

「忍たま乱太郎セル画展～最後のセル画・第8期を中心に～」  
「ウルトラシリーズのヒーローや怪獣をデザインした芸術家  
成田亨 尼崎ゆかりの資料展」

---

発行

編集

尼崎市 都市魅力創造発信課

制作

---